

水やりのポイント

水やりのコツはたっぷり！

表面の土が乾いてきた頃にはプランターの中の土も乾き始めています。

一日のなかでは、水やりはできるだけ午前中

夏の高温で土が乾燥する時期には夕方にも水やりを行うようにしましょう。とくに夏の気温の高い時期には、水やりによってプランターのなかに貯まった水の温度が高くなり、根を傷めることがあります。

水やりの注意点

水やりのタイミングは土の乾燥状態によって判断！

水の勢いを弱め、泥はねをしないように注意

泥はねをして茎や葉に飛び散りるとカビなどの病原菌やウイルスなどが原因となり、病気が発生しやすくなります。

水のやりすぎも根を傷め、植物の生育に悪影響をおよぼします。

収穫のポイント

収穫は果実が完熟して全体が青紫色になったら！6～9月が目安
果実をつまんで、まっすぐに引き抜きます。

実付きが悪い場合、一方の花粉を筆などにつけ、もう一方の花の雌しべにその花粉をつけます。

注意点

ブルーベリーは病気や害虫の被害が少ない植物といえますが、まったく発生しないというわけではありません。適切な作業や管理によって株を丈夫に育てれば、病気や害虫の被害を減らすことができます。また雑草を刈るなど株元をきれいにしておくことも大切です。

果実が熟す前にネットを張るなどして野鳥による食害を防除するとよいでしょう。

剪定

木の枝を切り、樹形を整えることを剪定といいます。剪定のおもな目的は次の3つです。

落葉期の12～2月が剪定の適期です。

①→②→③の手順で行います。

①ひこばえ（株元から出る勢いのよい枝）をそのままにすると株が混み合ってしまうのでひこばえは株元から取り除きます。その際、すべてのひこばえを取り除いてしまうのではなく、株が混み合わない程度に適度に残すようにします。この残したひこばえが枝葉を茂らせ、1～2年ほどして花を咲かせ果実をつけるようになったら、古くなった枝を株元から切り取って更新します。こうすることによって枝が若返り毎年安定して果実を収穫できるようになります。残したひこばえは先端を1/4～1/5ほど切り詰めて、若い枝を発生させやすくします。

②枝葉が茂り株の内側が混み合ってくると、日あたりや風通しが悪くなり、木が弱ったり、病害虫の発生が増えたりします。そこで、太く長い枝や混み合った枝、交差する枝などをつけ根から切り取って間引いて枝数を減らし、株内の日当たりや風通しを図るようにします。花芽のついた短い枝も間引いて数を減らすと、残した枝にできた果実が、甘く大きくなります。

③株をコンパクトに維持し、また枝を充実させるために、およそ30cm以上の長い枝や、間引かず残したひこばえは、先端から全体の長さの1/3～1/4ほどの位置まで切り詰めます。花芽は枝先に付くため、すべての枝を切り詰めてしまうと花がつかず、果実が実らなくなってしまうので注意しましょう。